

第95回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和4年8月26日(金) 10:00~11:35
開催場所	緑区役所 2A会議室
出席者 【敬称略】	部会委員) 杉崎、朝比奈、飯尾、植松、加藤、川原、後藤、松村 事務局) 横浜市：榊原、萩原、村田、石田、秋浦、古谷 市民セクターよこはま：加世田、金井 横浜市住宅供給公社：土屋、高橋
開催形態	公開
議題・報告 事項	1 1次コンテストの振り返りについて 2 令和4年度活動懇談会について 3 第54回地域まちづくり推進委員会でのまち普請事業に係る議事内容の共有(報告) 4 令和4年度整備施設の状況について(報告)
決定事項	なし

議事	
事務局	1 1次コンテストの振り返りについて 「資料1-1 1次コンテストアンケート結果」「資料1-2 1次コンテストYoutube視聴状況」について説明
杉崎 飯尾	発表の時間を長くしてほしい、というのは例年通りの傾向だと思います。 情報収集タイムの時に、他の委員が聞いているタイミングと重なり、話を聞くことができなかったグループがある。時間が短くても構わないので全てのブースに回りグループの話を聞きたいです。
川原	当日のスケジュール的に難しいかもしれない、情報収集タイムのやり取りをまとめた文書を読むことで足りるのではないのでしょうか。
飯尾 杉崎	雰囲気を感じる場として実際に話をしたいです。 今の情報収集タイムはあくまでもプレゼンの補足としての位置づけです。 もっと情報収集タイムを重要視するのであれば、委員はすべてのブースを回る必要があります。
飯尾	フリーの時間のときに、他の審査員と多少重なってもグループの話を聴ける様にしてほしいです。
事務局	情報収集タイムは元々1次コンテストでは実施していなかったもの。昨今1次コンテストと2次コンテストの実施内容に差がなくなっているとの話もあるので、そもそも情報収集タイムを1次コンテストのプログラムから無くしてしまうという議論もあり得るかと思います。

杉崎	情報収集タイムを充実させて質疑応答の時間もあると、コンテストの時間が長くなってしまいます。プレゼンでの疑問、情報収集タイムで聞けなかったことの担保のために質疑応答がある。平等という点では、すべてのグループに回らないと、受け手側にブースに回ってきていない審査員が票を入れていないと思われることもあるかもしれない。今回の場では決めきれないため、事務局で検討してほしいです。
事務局	承知しました。すべてのグループに各審査員が回るとなると提案数によって時間も大きく変わるため、安定したコンテストの運営が難しくなると想定されます。本日いただいた意見を踏まえ検討します。
川原	関連した話で、提案グループがブースに力を入れている傾向で、「こんなに準備をしたのにあまり見てくれていない」と不満を思われるのは仕方がない状況。なるべくプレゼンに力を入れてほしいこと、ブースはあくまでも補足であることを提案団体側によく理解をしてもらわないといけないと思います。
事務局	新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点から、プレゼン資料にパワーポイントを認めるようになりました。ブースに掲示するものは、コロナ禍の前は発表に使う模造紙を貼るだけでした。今はパワーポイントでの発表が多いため、ブースのために追加で資料作成をしなければならず負担が増えています。
加藤	質疑応答の時間に情報収集タイムを吸収してしまいグループの話をゆっくり聞くのも良いかもしれない。ブースはあくまでもプレゼン資料の展示とし、質疑応答の隙間の時間で確認したいことがあれば立ち寄って確認する形でも1次コンテストでは良いかもしれないです。
杉崎	やり方はいろいろ考えられるかもしれないですね。
松村	プレゼンの時と、情報収集タイムで得られる情報に質的に差があったと感じています。 質疑応答という形だと、コミュニケーションが取り辛い。書類などでは上手く表現できないようなこともニュアンスを含めて提案グループの考え、想いを伝えてもらい、それを汲み取ってあげることが1次コンテストの段階では重要だと思います。すべてのグループに回れない点は、昼休みに情報共有ができるため、問題ないかと思います。自分が直接行ったとしてもすべてを理解できるわけではないので。 ブースの使い方は工夫が必要だと思います。
杉崎	ブースの使い方は要検討ですね。一般の方も見られると満足感は少しあるかもしれませんが。

植松	アンケートにもありますが、グループとしては説明しようと思っていたのに審査員から一方的に受けるだけで自分たちの思いが伝えきれず審査員が理解しきれいていないのではないかと思われてしまうともったいない。
杉崎	情報収集タイムを充実させると質疑応答を減らさざるを得ないですね。
川原	設計コンペなどでは、発表で使った資料に掲載されているもの以外は認められなかったりする。ブースで新情報が出てくると困りますね。 掲示するのはあくまでも発表で使った資料の抜粋部分だけなど。プレゼン内容のエビデンスや写真など、視覚的にわかりやすいものがブースの役割になると思います。
杉崎	そもそもは提案書で審査するの必要があり、提案書の補足説明にあたるのがプレゼンであるため、提案書以外の情報が出てくるのは本来的には困りますね。
川原	一方で提案グループの方たちはプロではないので、情報収集タイムなどのコミュニケーションを取って理解していかななくてはいけない。 模造紙だといろいろな人が制作にかかわるので、それぞれの立場で参加してくれる。
杉崎	パワーポイントをやめることも考えられますね。
事務局	新型コロナウイルス感染症の観点から問題ないと判断できるのであればあり得ると思います。若い世代などパワーポイントの方が良い方もいるはずなので、発表方法については申請段階などでお伝えする必要があるかと思います。
加藤	審査員によって、質問の内容や方向性が異なると指摘されることがあった。審査員全体対提案グループという構図になるのが良いと思います。
杉崎	一方で同じ審査基準だけれども異なる知見を持った8人がいるから合議制になるという見方もできていますね。
加藤	審査員同士がそれぞれの考え方を把握したうえで意見することに努めることで、グループ側の不満には繋がらないと思いました。
植松	1次コンテストは実現性が基準ではないため、「こんなことをこれまでやってきたんだ」という熱量を伝えたいという気持ちは理解できます。
松村	プレゼンは先に行っているのだから、情報収集タイムをポスターセッションだと捉えられるのは問題があると思います。あくまでもプレゼンの補足の時間であると理解してほしいです。
朝比奈	提案グループにブースについてどの様な説明をしているのでしょうか。
事務局	発表で伝えきれなかった内容の補足や、質問がありそうな内容について説明できるものがあると良いと伝えていきます。
杉崎	わざわざ新たに作る必要はないですね、プレゼンで重要なことは説明するのが基本なので。
川原	ブースにはプレゼンの内容と、そこに少し関連したもので作ってもらえれば。プレゼンで分からなかったことなど聞きたいです。

杉崎	追加情報というよりはプレゼンの内容をより深くより丁寧に聞きたい時間で、大事なことはプレゼンで伝えてもらうということですね。
松村	情報収集タイムの目的が共有できたと思います。他にあるでしょうか。
杉崎	投票の方式について、「0・1・2」の持ち票で絶対評価により投票していますが、6提案選考の際に2点の得点を6提案以上に入れてしまうと、その人の選考に与える影響度は低くなってしまいます。審査員によって票の重みが変わり、厳しい評価基準をもって投票している方が悪く目立ってしまうと思いました。加藤委員の話にもつながりますが、杉崎委員の投票行動が選考に直接的に影響していたと感じている方もいました。それぞれの判断を各委員が等しく持つべきだと思いました。
事務局	良いと思います。1票目は投票する提案数は関係なくいれても良いと思いますが、2票目に投票する提案数の上限を選考件数とする方法ですね。
川原	持ち数を定め、相対評価で投票を実施していた時期もありましたが、選びたいのに選べないという委員の意見、年によって通った、通らなかつたという点が課題としてあったことから、絶対評価に変更され、現在に至ります。
事務局	6提案を最大とするのか、6を基準として7提案まで認めるなど方法は考えられると思います。今回は、提案の質も高かったこともあり、2票を入れた方が多かつた。全く票を入れないというのも問題であるとは思いますが、シミュレーションをして、検討させていただきたい。
杉崎	基本的には来年度の変更になるかと思いますが、今年度の2次コンテストから実施したい意向でしょうか。
事務局	現時点で、投票の方法を公表している訳ではないので、2次コンテストから実施するのも可能だとは思いますが、1次コンテストの結果を踏まえ改善したことではあるので説明もできると思います。
杉崎	2票目を絞ることで、1次コンテストと比較し投票数に差が大きく生まれることも想定され、2次提案数も確定はしていないため、2次コンテストから変更するかは、投票方法も含め検討させていただきたいです。
事務局	よろしくお願ひします。
事務局	2 令和4年度活動懇談会について 「資料2-1 1次コンテスト通過グループ活動懇談会について(案)」を説明
事務局	委員に特に役割は無いのですよね。
朝比奈	はい。提案グループから質問がありましたら、お答えいただくことになりま
事務局	す。
事務局	まちづくりコーディネーターとは何でしょうか。
事務局	市に登録された、まちづくりに関する専門家で、まち普請事業の主旨についてもご理解いただいています。活動助成金によりグループはまちづくり

事務局  
飯尾

コーディネーターの支援を受けることができます。

「資料2-2 令和4年度活動懇談会「ステップアップシート」」を説明配付するタイミングは検討しても良い気がしますが、内容としては明快だと思います。

杉崎  
飯尾

窓口相談でも渡してあげて良いかもしれないですね。

エントリーの時に渡してもらえていたら、もう少し提案の整理ができたかもしれないです。1次コンテストの内容もさらに充実するかもしれない。

杉崎  
事務局

今年度の提出していただいた内容も確認してから再度検討ですかね。

川原

はい。検討いたします。

1次コンテストの審査基準にもある「創意工夫」についての記載が抜けてしまうかもしれないです。別途枠をつくり、一連の考えを通じて創意工夫をどの様に考えているのか意識的に書いてもらっても良いかと思います。

朝比奈

懇談会では、ステップアップシートを完璧にした状態で臨むのではなく、アドバイスを聞くための材料として用いるという理解で良いでしょうか。

事務局  
後藤

はい。

一ページ右上の「目指す地域を実現するためにはどのようなことが必要ですか」という問いが、一般論としての回答になるかもしれない。あくまでもグループとしてどこが大事だと考えるのかを記載していただけると良いと思います。

杉崎

目指す地域の将来像のため、自分たちはどのような活動、貢献をするのかということですね。

飯尾

1次コンテスト後は考えて欲しい要素があることを示すために記載例があつてよいと思いますが、誘導してしまうところもあるため1次コンテスト前に配付するのであれば、記載例はない方が良いでしょう。

杉崎

ありがとうございます。

事務局

3 第54回地域まちづくり推進委員会でのまち普請事業に係る議事内容の共有について

「資料その他 ヨコハマ市民まち普請事業の状況報告及び今後の方向性の意見交換について」を説明

杉崎

主にまち普請を理解されている方たちに共感をしていただいたという場となりました。拠点ではないですが、ぐるっと緑道の活動など人通りがあり、開かれた空間で活動を継続させることに苦勞するようなので、継承を含めた支援の在り方の検討が必要という話をいただきました。

4 令和4年度整備施設の状況について

事務局

「資料3 令和4年度整備施設の状況について」を説明

杉崎

クラウドファンディングはいつまででしょうか。

事務局

8月末日です。

<p>松村</p> <p>杉崎</p> <p>事務局</p> <p>杉崎</p>	<p>クラウドファンディングは手数料が高く、グループの手元に入るお金は少なくなってしまう。公的に資金を募るようなことができるとういと思いました。</p> <p>ノウハウが足りていないのかもしれない。身近な人たちのための施設で、全国展開するわけではないので、クラウドファンディングである必要はなく、口座を作成し寄付を募る方が効率としては良いかもしれないです。</p> <p>事務局からもその様なノウハウを発信していきたいと思います。</p> <p>直接地域の方に声をかけるのも大切ですが、若い世代の方など、地域に人脈が無い方はクラウドファンディングがやりやすいかもしれないです。</p> <p>クラウドファンディングを活用したグループなどとの情報共有ができると良いかもしれないです。ありがとうございます。</p>
<p>資 料</p>	<p>(資料1-1) 1次コンテストアンケート結果</p> <p>(資料1-2) 1次コンテストYoutube視聴状況</p> <p>(資料2-1) 1次コンテスト通過グループ活動懇談会について(案)</p> <p>(資料2-2) 令和4年度活動懇談会「ステップアップシート」</p> <p>(資料3) 令和4年度整備施設の状況について</p> <p>(資料その他) ヨコハマ市民まち普請事業の状況報告及び今後の方向性の意見交換について</p>